

頒価 無料 / 送料60円(切手可)

○編集人：安藤澄雄

○発行人：笠原弘可(仙台支部代表)

申込先 〒980 仙台市東10番丁1
国鉄アパート1-18

謹賀新年

新春の辞

日本GAP仙台支部代表 笠原弘可

皆様、あけましておめでとうございます。

最近とみに思うことがあります。地球人、と言おうか日本人と言おうか、まあ多かれ少なかれ共通しているでしょうが、この露星人の社会で生きることは生やさしいことではないということです。何を今さら、と言われかも知れません。しかし、世界の情勢を見れば見るほど、日常の人間関係を考えれば考えるほど、さらに自分自身を知れば知るほどそう思うのです。

私は元来がグータラでナマケモノですから、人間は苦勞すべきでないという信念を持っています。利己的になれという意味ではありません。あえて苦しい経験を求める必要はないと思っています。貧困や、肉体の苦痛に顔をゆがめながら生きるのが人間の本来ではないと思います。

実際には、今の今、悲惨な戦争が行われ、人間社会には憎悪や嫉妬、随せいが渦巻いています。そうして、こんな偉そうな文章を書いている私も、自分ですらぞっとする信念を持つことがあります。

それゆえ私にとってはこの社会で生きることは生やさしいことではないのです。逆に言えば

生やさしくないから地球に住んでいるのでしょう。つまり何かを学ぶ、何かを身につけるのが目的のような気がするのです。たとえどのようなところでも、生命が満ちています。いろんな

ことがあっても「何ちゅうことない」と開き直って、人間本来のゆうゆうたる、堂々たる、明るく楽しいフィーリングを保つことができればいいなと思います。

昨年は、いろんなことに心まで巻きこまれていました。つまり勝手に真面目に取り組みすぎたようです。今年は精々「何ちゅうことありゃせん」というおらかな気持ちで生活していきたいと思います。

8カ月の重圧

仙台市 安藤博子

「ここに支部報用の原稿用紙置いておくからね。目に見えない重圧がドドーンときてしまった。

あー、どうしよう。もう言い訳も見つからなくなってしまった。支部報用原稿の締め切りが迫る度に「何か書かない?」「エー? そんな急に言われても書けない!」。そのうち都合のよいことに体の調子が悪くなったのでどうにか切り抜けてきた。けれどまたこの年の瀬に(たいした用事もないが)「ねえ、書かない?」とさいそくされてしまった。「エッ? でも年賀状書かないと...」。そう言いながら編み物などしていると気が引けてきた。批難めいた視線が強くなってきた。困った、困った。そばに制作者がいるといつも責められているみたいだ。「何を書いていいか思い浮かば

考えて前よりは暇になったはずなのに、一日のたつのはすく早く感じられてしまう。忙しいほうが時間を上手に使っていら

ような気がする。この8カ月間に「ああ暇だ! 退屈だ!」という観念が浮かんできたことがあった。そのとき私の意識は「何て怠け者でしょう。することは無限にあるのよ。暇だの退屈だのという考えなど起きるすきまもあるはずがないのに」と送ってくれてハッとした。日常生活にはたくさんのごことが転がっている。それを拾うか、気がつかずにそのまま通り過ぎてしまふかは本人の選択の自由だろう。けれど少しでも気がついたほうが楽しく有意義なものとなると思う。

とりあえず共同生活者としてレパシー練習をはじめてみた。相棒が仕事のとき時間を決めて2回送受信するのだが、5カ月ほど続けていて全然当たらない。見事に外れてばかりで、いつになったら当たるのやら。

とにかくこれでやっと8カ月間の重圧から逃れられそう。しばらくの間は大いばりて支部報を読めそうだし、意見も批判もできる。よかった。



日本GAP 仙台支部 **月例研究会 会場変更** のお知らせ (1月のみ)

◎本年1月度の仙台支部月例研究会は、都合により会場のみ変更いたしますのでご注意ください。
 ……1月度月例会……
 日時：1月22日・13時～16時半
 会場：仙台市戦災復興記念館
 仙台市大町2-12-1 ☎63-6931
 テキスト：『宇宙からの訪問者』

千葉県船橋市

山口緑



出会いの中で

講演録
連載第4回

みんな 同じ輝き

私は小学校に勤務する前は正直言って「1年生なんていうのは全くの子供の子供で、こちらが手とり足とり教え込まねばならず、非常に面倒で、つまらないだろうなあ。できれば5・6年生がいいなあ」と思っていました。

しかし実際に1年間を1年生の子供たちと過ごしてみて「彼らと自分とは何の変わりもないなあ」とつくづく思われました。ケンカも口論も対等にやりますし、給食の時間には、おかわりの競争相手としてよきライバルとなります。こちらが彼らのレベルに同調するために差を感じなくなる、というのが本当のところでしょうが、でも結局は「同じだ」と言ってもよいと思います。

ここで考えていただきたいのは、大人も子供もみんな永遠の生命の中で生き続けているのであり、私にしてみてもたまたま教師と子供という関係で出会ったにすぎないということです。だから大人だからとか、先生だからといって何もいばることはできません。むしろ私にとって、子供たちはかけがえのない先生なのです。

ある子は透きとおってまぶしいほどの純粋さをそと教えてくれますし、ある子は底抜けの陽気さを示してくれました。別のある子は洞察力のあるきらめく言葉をぽつりとこぼします。

よきにつけ悪しきにつけ、多くの意味で彼らは私にとっての教師です。だからこそ私たちは生きているのであり、めぐり合ったのだと言えるでしょう。

しかしそのような考えを保つためには、結果に左右されないほどのオープンマインドを持つ

ことが大切です。その上でこちらから心を大きく開いてみせれば必ず彼らもそれに応えてくれます。なぜならば、心を開いて友だちになり、できれば一体化したいという宇宙的な強い衝動は、大人とか子供とかに関係なく、だれの胸の中にも存在するものだと思うからです。

恐怖は いらない

ところで私たち大人が子供たちと接するときに気をつけなければならないことがもうひとつあります。それは「しつけ」と称して大人の考え方をムリに押しつけることによって子供を恐怖に陥れてはならないということです。

そういう私も、すぐに怒鳴ったり罰を課したり無視してしまったりという破壊的な手段を行って、無理に自分の考えに従わせようとするのがしょっちゅうです。いけないことだとは思いつつ、ついやってしまいます。本当に私は忍耐力がありませんね。

そうは言ってもこの地球上で生きている限り、ある程度の厳しさ・強制は必要なかもしれ

ないとも思います。みんなの邪魔をして、勉強の妨害をしようとする子にたいしては、やはりムチを向けてしまいます。子供には、ちょっと甘やかせばすぐにズに乗って大人をバカにしてくるという邪悪な面があるのも事実ですから……。

しかしやはり根本的には子供たちは大人を頼っています。恐怖や心配のなかにいるよりは、安心して落ちついたらいいのです。そうした環境のなかでこそ子供たちは本来のパワーを発揮し、生命の法則に向けて旅立って行くことができるのだと確信しています。

ところが心配だつたり寂しかったりした子は、それを補うためにうんと甘えてきたり、中学生に至ってはそれがゆがめられて非行という形で、それぞれ心の結びつきを求めてきます。

本当はどの子ども、自分の内部にある魂を求めているのです。そして苦勞しながらそれぞれの道を旅し続けているのです。それにたいして私たち大人ができること——しなくてはならないことは、彼らをやさしく見守り、あるいは導いてやることではないでしょうか。(つづく)

草原

***** 仙台 退屈男 ***** 笠原弘可

せわしい年の春れだから、のんびりした文章を書こうと思う。今年には実に忙しかった。ああ、この文章が皆さんに届くころは新年となっているはずなので、昨年は——というのが正しい。——いちいち説明するところなど、まるでのんびりした文章ではないか／昨年の草原にも気狂いじみた忙しさの中で書いたのがあった。あのころとは忙しさの質が違うが、やはり忙しい。仕事に加え個人的な事情も原因となっている。うちの奥さんに言わせれば、私くらいの忙しさは普通なのだそう。子供が出来るまでは務めていたのでよく分かるのだろう。すると私は普通の忙しさを、かなり忙しいと感じていることになる。要するに、ナマケモノに違いない／春、のどかなる日に、ゆるやかな川の流れて舟を浮かべ、プーカリプカリと昼寝したら、さぞかし気分がいいだろうと思う。夏、涼やかな高原の木陰で、好きな尸坊ちゃんでも読んでうたた寝できたら気持ちいいだろう。秋冬まで書きたいところだが、あまりのナマケ心に恥ずかしくなってきたのでやめにする／ずっと以前に、金星人の生活ぶりはこうだ、とある友人に話したことがある。友人は「そんなに完成された生活では退屈する。不完全な部分や、争いがあるから人間は刺激的に生きられる」と言った。私はそうは思わない。自慢にはならぬが私は5回の入院経験がある。入院生活はまさに食っちゃ寝、食っちゃ寝の生活である。確かに私は退屈した。しかし、経験からすると人間退屈すると必ず知的欲求が起り、活動への欲求が起きる。真の創造は余裕の中から生まれるような気がする。

大会と私 (1) 仙台市 佐藤喜代子

皆様お元気にお過ごしのこととお察し申し上げます。今年も宇宙への輪を広げ、よりよい明日を築きましょう。

さて、今年も6月に仙台におきまして、仙台・山形支部の年に一度の催しが開催されます。これは常日ごろの実践を通してせつかく芽生えた宇宙の意識への信念を確かめる事の出来る良

い機会ではないかと存じます。この大会を皆様と楽しい催しに致したいと存じます。杜の都仙台の青葉通りや 定禅寺(じょうぜんじ)通りのケヤキ並木も6月ごろは新緑を迎えさわやかに皆様をお待ち致しております。ぜひ皆様お誘い合わせの上御来仙下さいませよう御案内申し上げます。

第5回日本GAP仙台・山形合同支部大会は6月24日(日)13時～

編集後記

◎また1年が過ぎた。1年って何だろう？ 地球が太陽のまわりを1周すること。しかし太陽は銀河系の一部に短い弧を描い

ているだけ。その銀河系は宇宙の中でちょっと輝いてみたくにすぎない。その中で生きている。宇宙は広いのかもしれない。(A)